

平成 29 年度カラス被害対策業務報告

はじめに

都会のカラスは、都会の自然の中で野生の生活を営んでいる、もっとも身近な野鳥のひとつです。都会に生活する人間は、同じ都会に適応して増えているカラスとはずっと付き合っていかななくてはなりません。

都会においては、カラスがうるさい、嫌いという反面、カラスに餌付けをする人がいるなど、カラスと人との関係もさまざまです。カラスが増えたおもな原因が生ごみであることもふくめ、私たち人間の生活が深く関わっています。

西宮市では、市民がカラスと共存しながら、安全・快適に都市生活を営んでいくために、基本的な対策として、ごみ対策を継続的に実施しております。

平成 29 年度には、さらに踏み込んだ対策として、1. カラスが攻撃的になる繁殖期の巣の撤去、2. 市内のカラスの生息数の把握、3. タカによるカラスの追払いを実施しましたので、各事業の内容と結果をまとめました。

1. 巣の撤去業務

カラスは繁殖期（おおむね4月から7月）に、巣の近くを通る人を攻撃してくることがあります。（カラスのみならず生き物の多くは、子どもを守るために敵に向かっていきます。）

そのため、市民の安全を確保するため、人を攻撃してくるカラスの巣を高所作業車等を使用して、撤去しました。

業務実施場所 : 市内の国、県、市が管理する敷地内及び市の指定する場所

業務実施内容 : ・高所作業車を使用して、2ヶ所の巣を撤去
・高所作業車を使用せず、脚立を使用して4ヶ所の巣を撤去

2. 生息数調査業務

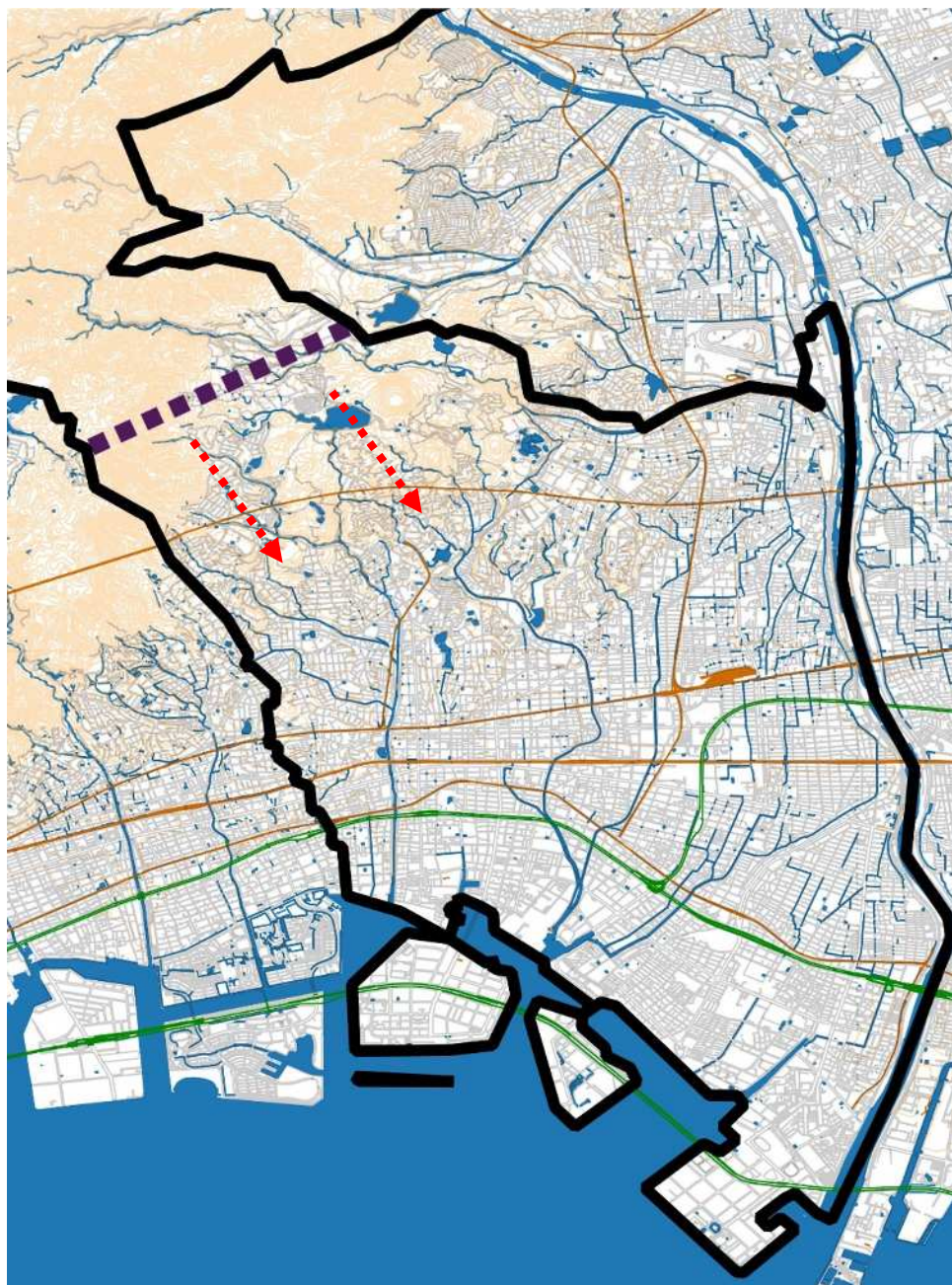
カラス類は、冬季の夜間に集まって眠る「集団ねぐら」を形成することが知られています。この「ねぐら」に集まる個体数を数えることで、その地域に生息する個体数を推定します。

本市南部地域（西宮市越水字社家郷山以南）図-1の住宅地において、カラスによる被害対策の検討資料とするため、カラスの生息数調査を実施しました。

なお、西宮市越水字社家郷山以北の北部地域においては、山間部が多く、カラスが本来生息する地域ですので、生息数調査は実施しておりません。

調査方法は、予備調査で「ねぐら」を特定し、その「ねぐら」において生息数調査（1回目）を実施し、その後、タカによるカラスの追払いを実施して、2回目の生息数調査を実施して、その効果測定を行いました。

図-1



予備調査 11月6日、7日

市内を広域に見渡せる調査地点を設け、カラスの「ねぐら」場所への移動を観察し「ねぐら」を特定しました。

予備調査の結果、神戸女学院大学岡田山キャンパス周辺、武庫川女子大学上甲子園キャンパス周辺、廣田神社周辺、高塚山周辺、西宮神社周辺の計5ヶ所の「ねぐら」を確認しました。

その他の可能性のある場所として、鳴尾浜臨海公園を含む海浜部の緑地がありましたが、今回の調査ではねぐらとして利用している個体を確認する事は出来ませんでした。

甲山周辺においても集団での移動は確認されませんでした。

生息数調査（1回目） 12月12日、13日

予備調査で特定した5ヶ所の「ねぐら」において、「ねぐら」入りする個体数、飛行方向等を調査しました。

- ・予備調査時に確認されていた「ねぐら」のうち、高塚山、武庫川女子大学上甲子園キャンパスのねぐらは利用数が減少しています。高塚山は造成工事行われており、その影響の可能性も考えられますが、西宮神社同様にその場所周辺に終日依存している少数が利用するのみになったと考えられます。
- ・武庫川女子大学上甲子園キャンパスは、聞き取りでは、個体数は日によって増減を繰り返し、1回目の生息数調査時点ではほとんどみられなくなったとのことです。調査時には昼間周辺に生息していた個体の大半が、ねぐら入り時には尼崎市側へと移動していくのが確認されました。
- ・神戸女学院は個体数が予備調査時より100羽程度多くなっていますが、予備調査時見えてなかった個体の誤差範囲内と考えられます。
- ・廣田神社は個体数を大幅に増やしており、予備調査から生息数調査で大きなねぐらが形成されたと考えられます。神戸女学院の個体数があまり変動していないこと、神戸女学院側から廣田神社に移動する個体がみられなかったことにより、廣田神社には予備調査時とは別の個体群が入ってきたと考えられます。
- ・予備調査から生息数調査1回目にかけての個体数の大きな変動は、季節による変動と考えられます。予備調査時は秋のねぐら状況であったものが、生息数調査時は冬のねぐら状況に移行したと考えられます。

調査結果

調査場所 「ねぐら」	予備調査 11/6, 11/7	1回目（羽） 12/12, 12/13	2回目（羽） 2/26, 2/27
神戸女学院岡田山キャンパス周辺	—	627	759
廣田神社周辺	—	312	3
武庫川女子大学上甲子園キャンパス周辺	—	8	11
高塚山	—	4	0
西宮神社	—	15	10
合計	—	966	783

生息数調査（2回目） 2月26日、27日

予備調査で特定した「ねぐら」において、生息数調査1回目の終了後に、タカによるカラスの追い払いを実施し、その効果を計るため2回目の生息数調査を実施しました。

- ・上記の「ねぐら」の内、神戸女学院内の「ねぐら」は、学院の許可が得られなかったため、「ねぐら」の外からの追い払いを実施しました。
- ・高塚山の「ねぐら」については、カラスの数も少なく、開発工事中でもあるためタカによる追い払いは実施を見送りました。
- ・生息数調査1回目と比べ、神戸女学院岡田山キャンパス周辺では大幅な増加がみられました。それに比べ廣田神社周辺では個体数が大幅に減少しています。
- ・総個体数でみると、生息数調査1回目の結果と比べ200羽以上減っており、予備調査の個体数に近い数値となっています。

放鷹の効果

放鷹の効果が顕著にみられた「ねぐら」は、廣田神社でした。「ねぐら」利用の個体数が激減しており、「ねぐら」内の糞痕量も少なくなっていました。また「ねぐら」入り前に集合していた周辺のマンションへのとまりも確認されませんでした。

廣田神社を追われた個体は、「ねぐら」を供用している神戸女学院岡田山キャンパスへ移動したと考えられますが、神戸女学院の個体数は、廣田神社の個体数が移動したほどの増加はみられませんでした。これはすでに2回目調査時には、繁殖期に入っている個体もいるため、季節変動による個体数の減少が始まっていると考えられます。

このほか神戸女学院の「ねぐら」では、1回目と2回目の「ねぐら」に利用する林の位置が変わっており、これも放鷹による影響の可能性が考えられます。

それ以外の地域では、西宮神社、武庫川女学院上甲子園キャンパスでは大きな個体数の変動は見られませんでした。

武庫川女子大学上甲子園キャンパスでは、昼間武庫川河川敷とキャンパスの樹林を行き来する個体が多く見られましたが、「ねぐら」入り時には生息数調査1回目同様に、尼崎市側へ飛翔していくのが確認されました。西宮市内南東部に昼間生息するカラスは、冬季には尼崎市内で「ねぐら」をとっていると考えられます。そのため放鷹による影響は少なかった可能性が考えられます。キャンパス内の作業員への聞き取りでは、放鷹後1週間程はカラスをほとんど見なかったが、1週間過ぎると徐々に戻ってきたとのことでありました。同様に西宮神社、廣田神社においても聞き取りを行った結果、戻ってきているとのことでした。

西宮神社は予備調査から利用数の増減はほとんどみられず、安定して利用されていると考えられます。

放鷹により、周辺地域へのねぐらの分散の可能性が考えられましたが、まとまって他地域へ飛翔していく個体は確認されなかったため、他地域に大規模なねぐらが形成されている可能性は低いと考えられます。

他地域へのねぐらの分散

予備調査時に、多数のカラスが「ねぐら」として利用していた、武庫川女子大学上甲子園キャンパスでは、生息数調査時には10羽前後の利用しか確認されませんでした。武庫川周辺や、西宮市内南東部側の個体のほとんどは、「ねぐら」入り時には尼崎市側へ移動しており、大規模な「ねぐら」が尼崎市側に形成されていると考えられます。

また予備調査時に、カラスが「ねぐら」として利用していた高塚山においても、生息数調査時には利用がほとんどなくなりました。高塚山周辺に昼間生息していた個体は、「ねぐら」入り時には芦屋市方向へ飛翔していくのが確認されており、「ねぐら」は芦屋市を利用していると考えられます。高塚山の工事による影響か、元々冬季のねぐらは芦屋市方向にあるのかは不明であります。

継続して「ねぐら」利用している個体

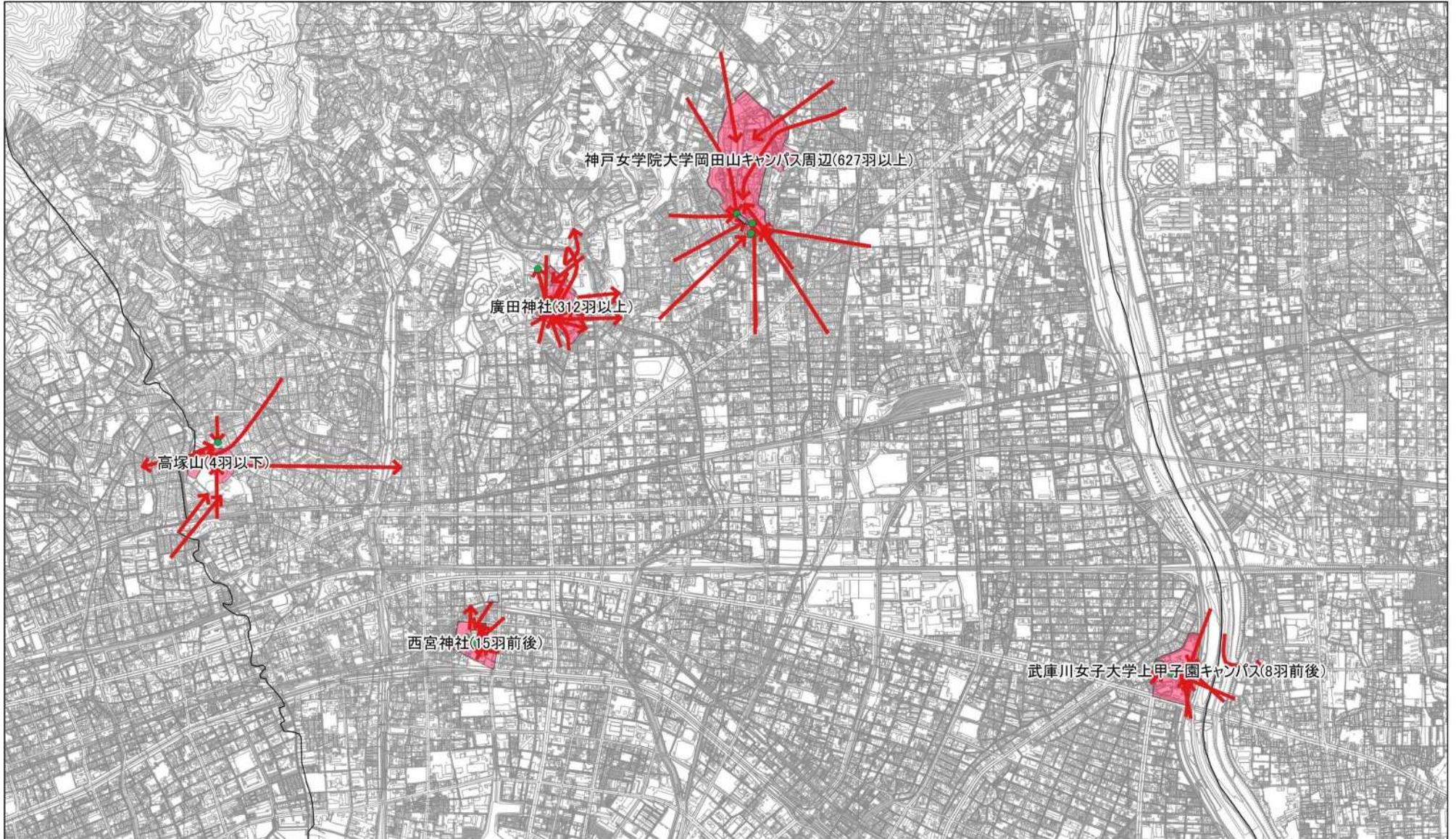
西宮神社では放鷹の有無に関わらず、個体数の増減が少なく継続して利用されています。その他の地域においても、放鷹後にもかかわらず「ねぐら」を利用している個体は、その場所に固執している個体と考えられ、その場所で繁殖を行う個体の可能性が考えられます。

神戸女学院の「ねぐら」内にある巣では、巣付近にゴミが落ちておりゴミに執着していると考えられます。武庫川女子大学の作業員の聞き取りにおいても、繁殖期には林内にゴミが多く落とされているとのことでした。繁殖個体は地域に対して固執しているため、ゴミに執着する個体も多いと考えられます。

「ねぐら」として選定される樹林

「ねぐら」内を調査した結果、大規模な「ねぐら」である神戸女学院岡田山キャンパスの南山エリア、廣田神社周辺の樹林は、クスノキ等の常緑広葉樹が多く、林内は昼間でも暗い状況でありました。それに比べ、武庫川女子大学上甲子園キャンパスでは、予備調査時に利用されていた場所は、クスノキの林ですが、枝が少なく昼間は明るい状態でありました。大規模なねぐらが出る要因として、外敵から見つかりにくい暗めの林が選定されている可能性が考えられます。

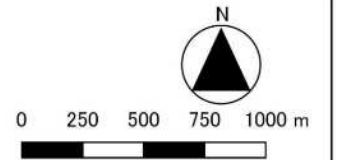
生息数調査（1回目）



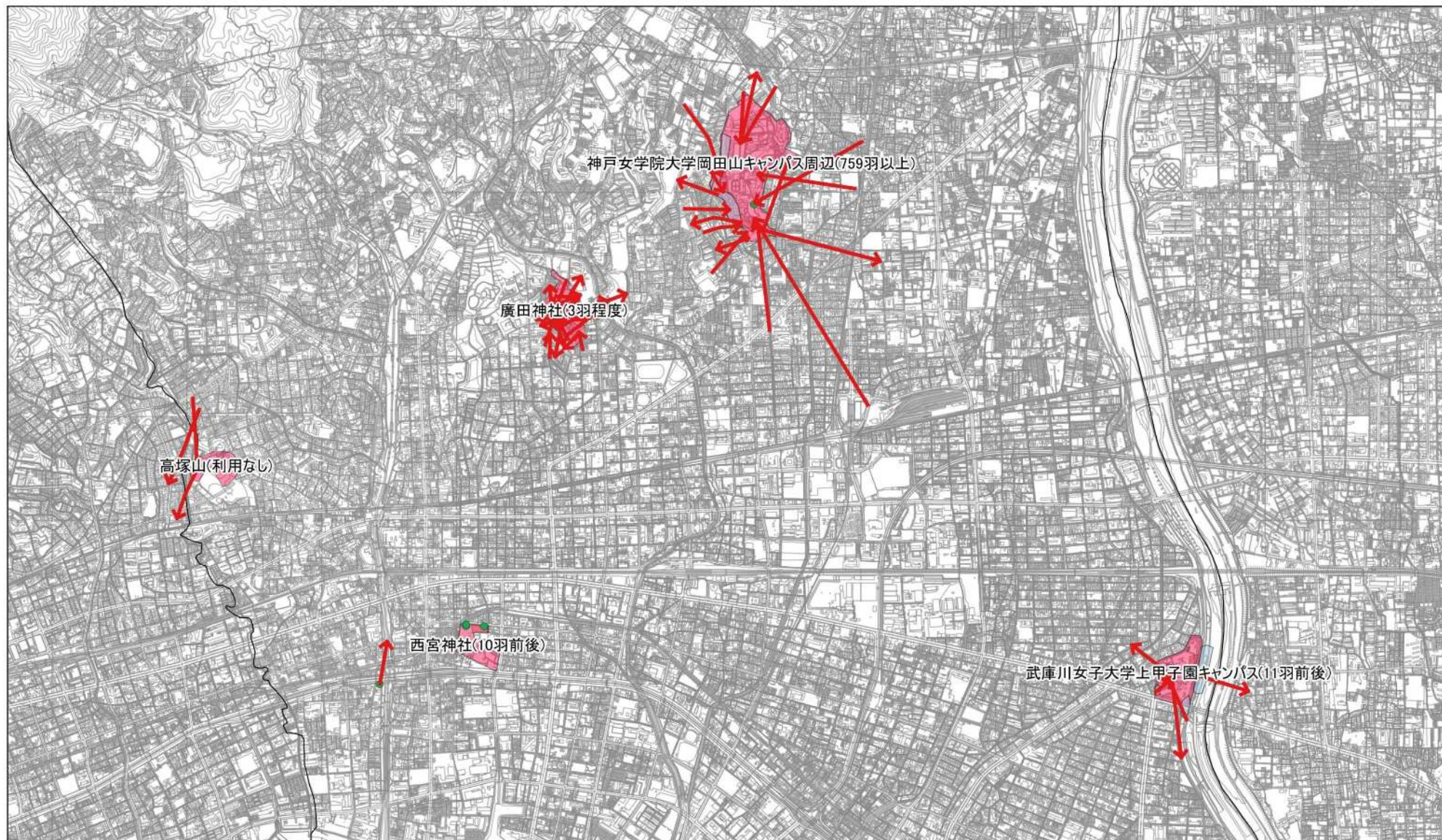
凡例

平成29年度生息数調査ねぐら位置

- 飛翔コース
- とまり位置
- とまり範囲
- 鳴き声



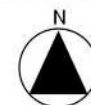
生息数調査（2回目）



凡例

平成29年度生息数調査ねぐら位置

- 飛翔コース
- とまり位置
- とまり範囲
- 鳴き声



0 250 500 750 1000 m



3. タカによるカラス追払い業務

カラスによる被害の効果的な対策として、カラスの餌場となっているごみステーション、カラスが集団で夜を過ごす「ねぐら」等で、タカによるカラスの追払いを実施し、市民の安心・安全を確保します。

業務実施場所

- ①甲子園球場周辺
- ②西宮市子育て総合センター周辺
- ③武庫川女子大学上甲子園キャンパス（ねぐら）
- ④西宮神社（ねぐら）
- ⑤廣田神社（ねぐら）
- ⑥岡田山（神戸女学院周辺）（ねぐら）
- ⑦西宮市食肉センター

業務実施内容

①甲子園球場周辺

ごみステーションを荒らして、ごみを散らかす被害がひどい状況でした。
ごみの日に合わせてタカを放鳥し、カラスを追払いました。

②西宮市子育て総合センター周辺

子どもが、センター前の庭でおやつ等を食べる時間に、カラスが飛来し、こどもに被害が及ぶ可能性がある状況でした。
おやつ等を食べる時間を中心にタカを放鳥し、カラスを追払いました。

③武庫川女子大学上甲子園キャンパス（ねぐら）

予備調査時に約200羽のカラスが「ねぐら」として利用していましたが、生息数調査時には、10羽前後の利用しか確認されませんでした。
季節により「ねぐら」として利用している場所ですので、夕方にタカを放鳥し、安心して寝ることが出来ない環境を作りました。

④西宮神社（ねぐら）

20羽前後のカラスが「ねぐら」として利用していました。
「ねぐら」からの追払いを目的としていますので、夕方にタカを放鳥し、安心して寝ることが出来ない環境を作りました。

⑤廣田神社（ねぐら）

昼、夜ともにカラスが多く、特に夜になると神社と市営団地の間に約300羽のカラスが集まっていました。

夕方になると「ねぐら」に帰る前のカラスが、団地や周辺のマンションの屋上に集まっています。

近隣のごみステーションを荒らして、ごみを散らかす被害がひどい状況でした。

「ねぐら」からの追払いを目的としていますので、夕方にタカを放鳥し、安心して寝ることが出来ない環境を作りました。

⑥岡田山（神戸女学院周辺）（ねぐら）

約 600 羽のカラスが「ねぐら」として利用していました。

近隣のごみステーションを荒らして、ごみを散らかす被害がひどい状況でした。

「ねぐら」からの追払いを目的としていますので、夕方にタカを放鳥し、安心して寝ることが出来ない環境を作りましたが、神戸女学院から立ち入り許可が得られませんでしたので、神戸女学院の周辺での作業となりました。

一部のカラスについては追払いが出来ましたが、かなりのカラスは残っています。また、廣田神社で追払ったカラスが神戸女学院に移動している可能性も考えられます。

敷地内の作業ができないため、これ以上の効果は難しいと思われます。

⑦西宮市食肉センター

食肉センターを餌場とするカラスが約100羽飛来していました。

廃棄物が出る時間を中心にタカを放鳥し、安心して餌が食べれない状況を作り、カラスを追払いを行いました。

この場所は、カラスの餌場になっていますので、継続しての作業が必要です。

おわりに

都市部におけるカラス対策を実施するにあたり、改めて考えさせられたのは、私たち人間が人として快適な生活をしていく上で、いかに自然と調和し、いかに自然と共生してくかということです。

自然は時として人の快適な生活を妨げます。カラスの問題もその一つです。

私たち人間の思い通りに自然を操ることは不可能です。しかしながら、市民の皆様がより快適な生活が送れるよう、市として様々な可能性に取り組んでまいります。

平成 30 年度も引き続き、カラスが攻撃的になる繁殖期の巣の撤去、市内のカラスの生息数の把握、タカによるカラスの追払いを実施してまいります。